

## 外発的動機づけと内発的動機づけ

欲求は困りものというイメージが強い。しかし、欲求がなければ、人は動かない。アメもムチも必要である。もっと違った自分になりたいとの思いも大切である。欲求は人を行動へと駆り立てる原動力である。欲求に訴えて一定の目標へと人を導くことを動機づけという。

その動機づけには、次ぎの3つの機能がある。

行動を起こさせる(行動の始発機能)

例:「さあーがんばろう」「なんとなくおかしい」

行動を持続させる(行動の強化機能)

例:「もう少しで終わらからがんばろう」「もっと知りたい」

行動が目的達成にふさわしいかどうかを評価する(行動の評価機能)

例:「よくできた」「これでいいのかな？」

動機づけは、欲求の種類によって2つに分けられる。

生理的欲求と社会的欲求に基づく動機づけを、欲求満足の対象(誘因)が外側に用意されていることから、外発的動機づけとよぶ。これに対して、内発的動機づけと呼ぶ。教育場面を想定して、それぞれの特徴をまとめてみたのが、表1である。

外発的動機づけ(extrinsic motivation)には、まさに人を外から駆り立てるという面が強い。競争させたり、ほうびをちらつかせたり、ときには、おどしてみたり。これによって、人が、目標達成に向けて動くことは確かであるが、その効果はその場限りで、人格的成長にまではつながらない。これに対して、内発的動機づけ(intrinsic motivation)には、その人まかせ、したがって、成果がただちには出てこないもどかしさはあるが、ひとたび行動が始発すれば、強力かつ持続的に高い人格的な目標まで行動を導いていくことができる。

表1 外発的動機づけと内発的動機づけのちがい

動機づけ	人間観	教育観	関与する誘因	関連する欲求	学習する理由	具体例
外 発 的	怠惰な存在	強制・管理 (アメとムチ)	賞罰、競争	依存、承認、 所属など	外生的 (外から与えられる)	入試合格 しつけ
内 発 的	自律的存在	援助・支持 (自己教育)	学習課題 そのもの	好奇心、探索 欲求など	内生的 (自分のなかから)	パズル解き 学問研究

その他に3つ目の動機づけとして、機能的自律性(functional autonomy)がある。

これは、オールポート(Allport, G.W., 1937)の提唱した、動機の変化とその機制に関する概念。現在機能している動機は、先行する動機から生じたものではあるが、その後にはそれとは独立した、新たに生じた興味や生活様式などによって獲得されたものだという考え方。すなわち、現在の行動を生起させる動機は後天的に獲得され、本来の動機からは機能的に自立している。たとえば、昔、生活のために水夫をしていた男が、現在裕福な銀行家になり、しかし、なお海を懐かしみ、ヨットなどを楽しんでいる。この場合は、現在のその行動の動機は飢えの欲求を満たすという動機とは機能的に同じ種類のものではない。このよ

うな付带的、外来的価値が固有な価値に変化するプロセスが、機能的自律性である。したがって、承認欲求、親和欲求などの社会的欲求や習慣も機能的自律性をもったものといえる。

## コーヒータイム

### やる気の源泉

- やる気の源泉が内側      内発的動機づけ
- やる気の源泉が外側      外発的動機づけ



### 大きすぎる賞罰

- 大きすぎる賞罰は子どもの内発的動機づけを高めることを阻害するなぜか？考えてみましょう。

### デシ (Deci, E.L.) の考え

外発的動機づけと内発的動機づけの二分法のみで考えることは危険であろう。なぜなら、日常生活では両者をいつも明確に分けることができないからである。この点について、デシは「どのようにすれば他者が自らを動機づける条件を生み出せるか」との問いに対して、「自立性」が最もその問を解くキーファクタになるであろうと述べた。

参考書：『人を伸ばす力 - 内発と自律のすすめ - 』

著者：エドワード・L・デシ + リチャード・フラスト

訳者：桜井 茂男 新曜社

## BOX

では、下記の項目は外発的動機づけ・内発的動機づけのいずれに分類されるでしょうか？

1	親にほめられたいから	
2	先生にほめられたいから	
3	親に叱られたくないから	
4	先生に叱られたくないから	
5	宿題があるから	
6	テストがあるから	
7	成績をよくしたいから	
8	友だちに負けたくないから	
9	えらい人になりたいから	
10	好きだから	
11	面白くて楽しいから	
12	新しいことを知りたいから	
13	おとなになって役立つから	

参考文献：杉村健 『小学生の学習心理』 1985 教育出版